

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2016年11月18日

No.7

2016年度 年末手当妥結

基準内賃金×1.5カ月

2016年度 年末手当交渉最終報告

中央本部は第4回交渉以降、厳しい労働条件の中、日々職場で奮闘する組合員の想いに応えるために断続的に交渉・折衝を行ってきました。そして本日19時20分より年末手当の最終交渉に臨みました。

会社は席上①上半期においては国内の景気が伸び悩む中、地震や台風災害により荷動きは低迷した。②このような中で社員一人ひとりの努力を結集した結果、中間決算では経常利益29億円を計上したが下半期も厳しい状況にある。③この困難な局面を社員・経営陣が一丸となって打開し、目標である鉄道事業の黒字化達成に向けて取り組む必要がある。その先のJ R貨物の将来展望については皆さんの意見を集約して次期中期経営計画として構築する。④よって今次年末手当については1.5カ月分とする。と回答しました。

これに対して中央本部は、①要求や中間決算の業績から見れば今回の回答は開きが大きく、不満であり憤慨するが、現状を見極めた上で妥結する。②今次年末手当闘争では62機関で1000名を超える組合員が参加し集会を取り組み、現場長要請においても各現場長は要請内容を真摯に受け止めるなど、年末手当に対する期待は大きいものがあった。③私たちは現状を認識し判断をした。今後は経営陣の姿勢を厳しく問う。経営陣の責任において収入拡大に向けて更なる努力を行ない、黒字化を達成すること。④その上で組合員に将来展望を明確に示すことを強く求め、年末手当について妥結しました。

10月19日の申し入れ以降、「秋の闘い」と結合し職場から創意工夫した取り組みによって年末手当獲得交渉を支えていただいた事に対し、改めて感謝を申し上げます。

職場では要員問題や輪転資材の不足など、解決しなければならない問題が山積しています。この闘いで培った組織力を発揮し、貨物会社の将来展望を明らかにするとともに、安心して働くことのできる職場環境と労働条件の確立に向けて、職場から闘いをつくり出し、いこうではありませんか。中央本部はその最先頭で奮闘することを明らかにし、年末手当交渉の最終報告とします。

以上